

## ヤングケアラー夜間休日窓口設置事業

### 1. 事業実施団体

N. K. C ナーシングコアコーポレーション合同会社（米子市）

介護者に保険内外のサービスを活用してもらうことで、既存の介護離職や介護を巡る家族の軋轢といった社会における介護の課題の解決を目的に様々な事業を行っている。

### 2. 県の協働担当課

子育て・人財局家庭支援課

鳥取県の家庭支援を担当する部署。家庭支援課は、特別医療費助成（小児、ひとり親）、不妊治療費助成、ひとり親家庭支援、DV被害者支援、児童扶養手当、児童虐待防止などの事業を行っている。

### 3. 課題及び目的

ヤングケアラーについて、全国的にも調査が行われ他県に先駆けて鳥取県内においても相談窓口が開設されたが、学業や就労などにより平日日中は窓口にアクセスしづらい状況があった。

そこで、平日日中の窓口に加え夜間や休日時間帯に SNS 上の相談窓口を設置することで、若者がより安心して介護の相談ができ、学業や就労の継続、就労に向け前進できる環境をつくることを目的とした。

### 4. 課題解決の手法

#### (1) ヤングケアラー夜間休日相談窓口の設置

ヤングケアラーの夜間や休日時間帯における SNS 相談窓口を設置し、若者が安心して相談できる、相談しやすい環境と整える。

#### (2) ヤングケアラーについての啓発

子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識し、家庭内の看護介護の抱え込みをなくすることができるよう啓発を行う。また、ヤングケアラーを取り巻く行政機関、学校及び支援機関の対応力向上を図るため啓発を行う。

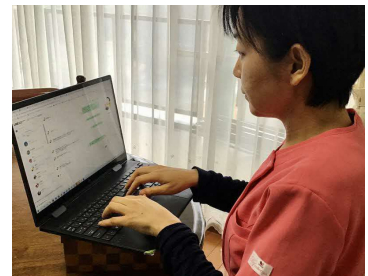
### 5. 主な役割分担

#### 【事業実施団体】

- ・ヤングケアラー夜間休日相談窓口の設置・運営
- ・啓発イベントの実施や関係勉強会等への登壇等

#### 【行政】

- ・県や自治体の支援機関へとの連絡調整
- ・ヤングケアラーを始め困難を抱える若者支援の取組への助言



### 6. 成果

#### (1) ヤングケアラー夜間休日相談窓口の設置

県で対応時間と相談手段を補完し、相談者のニーズに沿った相談者がより気軽に相談できる仕組みを構築することができた。

■対応時間：平日 18 時～25 時、土日祝日：9 時～25 時

■登録者数：112 名

■登録者のうちやりとりした人数：35 名

■総やりとりトーク数：1,570 回（1 人あたりの対応回数は約 45 回）

■公的・民間機関を紹介したケース：13 件

■やりとりの多かった時間帯：20 時～23 時

■主な相談内容

- ・難病を抱える母の介護をしつつ、進学を考えている。父が進学することをよく思っていない。主に家族関係の悩みが強い。（高校三年生・女性）
- ・10 代の頃より難病を抱える母親の介護をしてきた。結婚もしたので自分の家庭も大事にしたいが、母は自分を優先してほしいと切願する。（30 代・女性）
- ・父に障がい、母は介護が必要な状況。両親の介護をするために離職する以外の方法が知りたい。（20 代・男）
- ・親の介護が精神的に負担になっている。介護保険を使ったサービスは気持ちが癒えない。他

に利用できるサービスがあれば教えてほしい。(年代不明・男)

## (2) ヤングケアラーについての啓発

事業に係る報告会や勉強会、オンラインイベントを開催した。多くの参加がありヤングケアラー問題への認識が深まった。

### ①ヤングケアラーへのデジタルを活用した相談実践事例の報告・検討会

- 開催日：令和3年11月24日(水)14時～15時30分
- 場所：オンライン及び鳥取市民交流センター
- 参加者：オンライン約70名、会場17名
- 登壇者：認定NPO法人D×P 理事長 今井 紀明 氏  
一般社団法人ヤングケアラー協会 代表理事 宮崎 成悟 氏  
鳥取県子育て・人財局長 中西 朱実 氏

### ②ケアラーあるある LIVE 配信イベント (計3回)

	開催日	参加者	ゲスト
第1回	令和3年11月30日	視聴者19人・再生回数162回	(一社)ヤングケアラー協会
第2階	令和4年1月28日	視聴者19人・再生回数139回	ぼんぼや号※
第3回	令和4年2月10日	視聴者11人・再生回数72回	(一社)ヤングケアラー協会

※元ヤングケアラー当事者

### ③チラシ・ウェブ広告、メディア等を活用した広報

- ・県内の教育機関等に35,000枚のチラシを配布し、SNS登録促進につながった。加えてチラシを手にする関係者の啓発にも有効であった。
- ・窓口運営に関して、フジテレビや毎日新聞社など大手メディアを含む県内外の複数メディアから取材を受け高い広報効果が得られた。
- ・YouTubeへバナー広告を出稿し、約1,330,000回表示され、約3,600人が「ヤングケアラー相談窓口ウェブサイト」を訪れた。

## 7. 事業終了後の状況

- ・SNS相談対応についてニーズがあることが確認でき、令和4年度から県事業として本格実施につながった。(24時間相談受付、午後6時～11時に返信)
- ・事業実施団体を講師やパネリストに招いた研修会やシンポジウムが県内各地で開催され、更生保護、青少年支援、民生委員、社会福祉協議会等幅広い分野でヤングケアラーに対する関心や支援に取り組む意欲が高まっている。